





横浜市庁舎の免震技術の視察（2016年3月）



現地の建築工事現場の視察（2016年6月）



木造建築技術についての講義（2016年10月）



### 第1回

2016年3月、横浜市

カトマンズ市から3名の技術職員を横浜へ招き、5日間の研修を実施しました。研修では、横浜市の建築物の耐震対策や違反建築対策、そして安全なまちづくりの取組事例についての講義を行いました。また、市役所の免震設備や、横浜市の歴史的建造物の耐震補強・保存事例等についても視察を行いました。

### 第2回

2016年6月、カトマンズ市

今後カトマンズ市において、鉄骨造・木造の建築を導入・検討される可能性があることから、横浜市から現地へ専門家派遣を行い、日本の鉄骨造の設計基準や耐震基準等に関する講義を行いました。併せて、被害を受けたカトマンズ市庁舎のアセスメントと分析、市内の工事現場視察等を実施しました。

### 第3回

2016年10月、カトマンズ市

第2回に引き続き、横浜市からの専門家派遣による研修を実施しました。また、これまでの研修で、建築物の安全性に対する意識啓発や、違反建造物への対策の必要性が検討されたことを受けて、鉄骨造・木造の技術的な研修に併せて、横浜市で行われている違反建築物への対策等に関する講義を行いました。

## ▶ 今後の課題

研修を通じ、日本の耐震技術や工事に関するハード面での知見がカトマンズ市側へ伝えられ、それと共に防災に関する知識、そして啓発活動などソフト面の取組についても共有されました。

一方で、1年間の研修を通して、復興を進めるうえでの今後の課題も確認されました。

ネパールには鉄骨造や木造の建築資材を供給できる工場がなく、建築資材の品質管理制度が欠如している点に加え、行政と工事現場の労働者、そして住民の間に安全な建物に関する知識面での大きな格差が存在しています。

今後は、許認可を行う行政職員だけでなく、実際に

工事に従事する人や、住民レベルにおいても安全な建物に関する意識の醸成と、その格差を埋めていくことが課題となります。

今後、カトマンズ市が「Build-Back-Better(より良い復興)」を進めていくためには、都市の様々な関係者が、それぞれの役割において安全なまちづくりに参画していく必要があります。この研修は、これらの関係者間の連携を構築し、住民の安全に対する意識を変えていく点にもつながっています。

シティネット横浜プロジェクトオフィスと横浜市は、今後もカトマンズ市との対話を進め、同市の安全なまちづくりを支援していきます。